

SFA フットサル審判員配布資料

(第31回全日本U-12フットサル選手権大会 札幌地区予選 用)

第1条 ゴールの移動

- ・意図的か偶発的にかかわらず、ボールがゴールラインを越える前に守備側競技者（ゴールキーパーを含む）によってゴールが動かされ、または転倒させられ、ボールが本来あるべき位置のゴールポスト間からゴールに入ったことになる場合、主審・第2審判は得点を認めなければならない。

第5条 職権と任務

主審は、第3審判およびタイムキーパーが置かれていない場合、これらの役割を果たす。

(本大会では、アディショナルタイムは考慮しません。タイマーのブザーが鳴った時点で試合終了になります。負傷者への対応・警告退場の処置で時間を要した時間は、主審は第3審判に対して、タイマーを止める指示をして下さい。)

- ・主審・第2審判は、競技者が重傷を負ったと判断した場合、プレーを停止し、確実に競技者をピッチから退出させる。負傷した競技者は、ゴールキーパーを含め、ピッチ内で治療を受けることはできず、プレーが再開された後のみ、ピッチに戻ることができ、競技者は自分の交代ゾーンからピッチに入らなければならない。ピッチから退出を求められないのは、次の場合に限られる：

- ・ゴールキーパーとフィールドプレーヤー（ゴールキーパー以外の競技者）が衝突し、対応が必要なとき
- ・同じチームの競技者が衝突し、対応が必要なとき
- ・重篤な負傷が発生したとき (抜粋)

第7条 プレーのピリオドの終了

- ・主審・第2審判が終了の合図の笛を吹かない場合でも、音による合図があったとき、ピリオドは終了する。

※上記により、タイマーのブザーが鳴った後にボールがゴールに入っても得点にはなりません。

第8条 キックオフ

- ・コイントスに勝ったチームが、第1ピリオドに攻めるゴールか、またはキックオフを行うかを決める。
- ・この結果により、相手チームがキックオフを行う、または第1ピリオドに攻めるゴールを決める。

第12条 得点、または、決定的な得点の機会の阻止

- ・ゴールキーパーが自分自身のゴールの前において、ゴールを守っていた場合、他のDOGSOの基準に合致していても、DOGSOの反則が犯されたとは考えない。 ※SPAとして警告を与える

第15条 キックイン

ボールをけり入れるとき：

- ・ボールは、ピッチを出た、または、天井に触れたところから最も近いタッチライン上の地点で静止している。

第16条 ゴールクリアランス

- ・ボールは、投げられる、または、リリースされて明らかに動いたときにインプレーとなる。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ペナルティーエリアの外にいる。

4秒のカウント

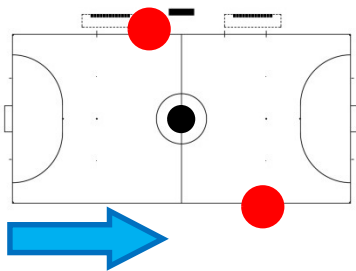


左図のように4秒カウントのシグナルも改正されました。

カウント開始(0秒)時の腕の位置は胸の前からとなります。

腕を伸ばし折りたたむ動作を繰り返しますが、慣れない動作に気を取られ4秒以上となることが多いようです。正確な時間を計りながら練習しましょう。

キックオフ P103 (ポジション・笛・シグナル・主審はセンターサークルの先端) ※センターラインから 2.5m

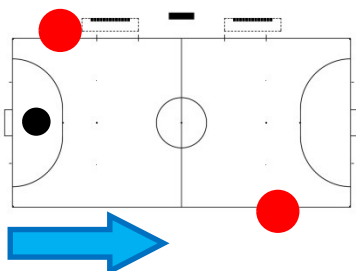


キックイン P111 (ポジション・4mの監視・4秒のカウント・ボールの位置・ミスへの対応) ※腕は外側に振る

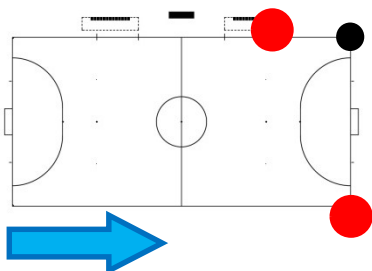
フリーキック P106 (ポジション・笛・シグナル・4秒のカウント)

ゴールクリアランス P104 (ポジション・笛・シグナル・4秒のカウント)

※GK からボールがリリースされた時点でインプレーとなります。

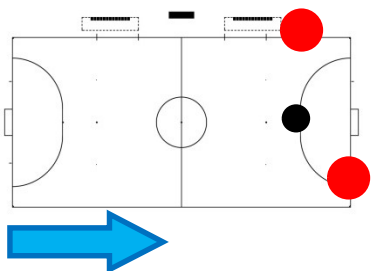


コーナーキック P105 (ポジション・笛・シグナル・4秒のカウント)

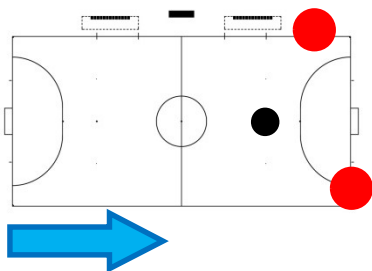


ペナルティーキック P108 (ポジション・笛・シグナル)

※R2 はゴールライン上のペナルティーエリア内に位置する。



8m マークからのDFKSAF P109 (ポジション・笛・シグナル・4秒のカウント)



大会はトーナメント方式の為、勝者を決定するためのペナルティーマークからのキックもあります。

進め方はフットサル競技規則 P52-54、ポジションングは P117 に記載されていますので、ご確認ください。